

## 第四六三回（十月二三日開催）

### 出席委員（五十音順・敬称略）

朝野 富三            荒巻 裕  
大村 英昭            倉光 弘己  
黒田 勇              櫻井 美幸  
書面参加  
木下 明美

### テレビ・開局50周年記念ドラマスペシャル

#### 13年度芸術祭参加作品

「ごきげんいかが？テディベア」9月22日（土）午後4時～5時24分 放送

#### 櫻井委員

テーマは、肉親を失った家族がどう立ち直っていくか、魂をどういう形で救っていくかということだと思うが、胸を打つシーンが随所にあり感動した。

臓器移植という重いテーマに、ひきこもりの問題とテレクラを絡ませていたが、テレクラがあのような形で出てくるというのは、ある意味で驚いた。社会的な現象としては、非常に示唆に富む設定だったと思う。

#### 朝野委員

開局50周年記念番組にふさわしい、非常に良質のドラマだ。ただ、臓器移植におけるドナーとレシピエントの関係は非常に微妙な問題で、記者の取材ノートからレシピエントの身元が分かってしまうという設定は、ドラマではあるが、報道機関としてあってはいけないことを前提にしているという点で、どうなのかと思った。

#### 黒田委員

地域のアイデンティティーという点では、非常にすばらしい出来だった。私は、ローカル局が生き残る道は、普遍的なテーマをローカルの中に設定し、それを積み上げていくこと以外にないと考えている。その意味で、今回視聴者の目をもう少し意識したほうがいいと思う場面もあったが、それぞれの地域の人たちが「あっ、あそこ知っている」と、画面の中にずっと入っていけるという点では最高だったと思う。

#### 倉光委員

私にとってはドラマのテンポがやや速すぎて、“時間の行きつ戻りつ”についていきにくい所があった。

臓器移植では、実は臓器を提供した側の方に、気持ちの上でふっきれないといったいろいろな問題があるが、主人公の女性が最後に納得する仕方があまりにもあっけなくて、やや違和感を覚えてしまった。ただ非常に重いテーマを理解してもらおうという点では評価したい。

#### 荒巻委員

ドラマの中で印象に残る言葉が二つあった。一つは「初めて心臓がドキドキした」そして「人の不幸をどこかで待っている自分がいる」という言葉。そこに、作り話ではない真実というものを見た思いがした。ドキュメンタリー的な手法を取っているせいか、カメラの揺れが少し気になった。

#### 大村副委員長

主演の山田花子の演技には感心した。素人風を演じられる玄人というのは、かえって大物ではないかと思う。臓器移植でいえば、ドナーの家族の心の揺れに視点を定め、魂の救い、私探しといったテーマに結び付けていったのはさすがだと感服した。

#### 木下委員（書面）

母恋し、母を訪ねてという「母もの」の古いテーマと、臓器移植という新しいテーマをミックスした「社会派的母もの」に取り組みながら、その底に流れているのは、喪失からの再生という普遍的なテーマではないだろうか。また、大阪という地域の良さ、さらに関西という地域を愛する作者の気持が、とてもよく出ていたと思う。